

(2) 工夫(くふう)

1) ボランティアについて

被災者の遠慮や警戒からニーズが出にくいことがあります。ボランティアだけではなく、地域内や近隣の方々と協力して活動しましょう。

被災地内の災害ボランティアセンターは、地域内や近隣の方々が中核となって運営できるようにします。地元が自らの被災対応に追われている初期でも、外部支援者だけで意志決定をするのは避け、地域外の支援ボランティアは地元運営を支えていきましょう。

円滑に活動するためにはボランティア同士がコミュニケーションをとることがよいでしょう。例えば、お互いにニックネームで呼び合うことなどで親しみやすく接することもできるでしょう。

さまざまな従来のしがらみから、地元が表に出るとのちのち負担になってしまう部分を、地域外からのボランティアが引き受けることで、スムーズにいく場合もあります。

被災者のニーズは刻一刻と変わり、古い情報を流すことで無駄な物資が集中し、被災地の大きな負担になることから、マスコミやウェブサイトを通じて支援物資を要望するときには、そのようなことが起きないように留意しましょう。

ボランティア活動を終えて自宅に帰る前に、観光地やショッピングセンターなど気分転換できるところに寄って、心をクールダウンさせてから帰りましょう。

避難所にいる人と話をする際には、相手と同じ目線に自らの姿勢を自然に合わせて話をしましょう。

2) ボランティアセンターについて

ボランティアや被災者にあわただしさを与えないよう、走らないようにすることや早口で一方向的にしゃべらないなど、ゆったりした気持ちになることが大切です。

活動に行き詰ったら、ボランティアセンターを一度「休日」にするなど、余裕を持った対応も考えられます。

ガムテープの名札に受付日や受付番号もあわせて記入するなどの工夫をすることで、ボランティアの自発性を促すことや不審者を未然に防ぐこともできます。

被災者やボランティアの感想や意見を丁寧に聞くなど、さらに愛されるボランティアセンターを目指しましょう。

花や絵など、人が安心できるものを少し飾るだけで、雰囲気も大きく変わります。

看板や掲示物は文字だけでなく、絵や写真を多用することで見やすく工夫しましょう。

ボランティアについて について

どの立場の人の工夫かが分からないです。あまりにぐちゃぐちゃすぎる。<中川氏(時事通信社)>

について

これはくふうといえるのでしょうか。「入りやすいようにする」ではなくて、その人たちが中核なんではないのでしょうか。このままでは「ボラセンは外部が前提」と読めます。このままではまずいのではないのでしょうか。本来、これは次のようにして「きはん」にすべきではないのでしょうか？

<中川氏(時事通信社)>

「・・・一緒に活動するようにしましょう。・・・ができることもあります」<池上氏(財団法人市民防災研究所、東京YWCA)ほか多数>

について

平時の遊び感覚ボラだったらいいけど、災害時にニックネームが望ましいとは思いません。もちろん、子供の遊び相手ボラとかはそれでいいと思いますが。ボラセンのマネージャーとかコーディネーターが「ちゃん」では、まずいと思いますし、疑問があります。＜中川氏（時事通信社）＞

「・・・つけるなどの工夫すること一案です」（キャッチフレーズという表現は不適切だと思います）＜池上氏（財団法人市民防災研究所、東京 YWCA）ほか多数＞

について

「迷惑なボランティア」ということをア priori に書いてしまうのはどうかと思う。経験のない自治体が「ボランティアは迷惑」と考えることを推奨するよう に思います。逆に、「迷惑なボランティアニーズ」を断るのが、地域外ボランティアという例えでもいいのでは？ということはどうでしょうか？＜中川氏（時事通信社）＞

「・・・ならないようにしましょう。」＜池上氏（財団法人市民防災研究所、東京 YWCA）ほか多数＞

について

これはいずれも「くふう」レベルに達していないと思います。どうやったらいいか具体的な内容がくふうであるはずですし、事例は少なからずあるはずですよ。＜中川氏（時事通信社）＞

「・・・融通しあいましょう。」＜池上氏（財団法人市民防災研究所、東京 YWCA）ほか多数＞

2) ボランティアセンターについて

について

例えば、「きはん」に「ゆったりとした気持ちで、ボランティアをしましょう」とかいうのをいれたらいかがでしょうか。その一つとして、走らないとか、早口で一方向的にしゃべらない、などがあると思います。＜中川氏（時事通信社）＞

について

個別のノウハウですが、自覚を促す目的に加えて、「不審者を防ぐ」目的もあるという程度ではないでしょうか。＜中川氏（時事通信社）＞

「・・・記入しましょう。」＜池上氏（財団法人市民防災研究所、東京 YWCA）ほか多数＞

（追加意見）

「ボランティア活動を終えて自宅に帰る前に、観光地やショッピングセンターなど気分転換できるところに寄って、心をクールダウンさせてから帰ろう。」＜山本氏（三重県防災ボランティアコーディネーター養成協議会）＞

「活動に行き詰ったら、ボランティアセンターを一度「休日」にするなど、余裕を持った対応も考えられます。」「被災者やボランティアの感想や意見を丁寧に聞くなど、さらに愛されるボランティアセンターを目指しましょう。」「花や絵など、人が安心できるものを少し飾るだけで、雰囲気も大きく変わります。」「看板や掲示物は文字だけでなく、絵や写真を多用することで見やすく工夫しましょう。」＜栗田氏（レスキューストックヤード）＞